



尊厳の回復を

ちいろば会業務執行理事 富田忠一

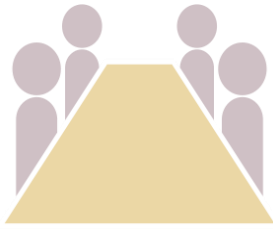
2016年7月、神奈川県相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人を殺害し、26人に重軽傷を負わせた事件の裁判が来年1月8日から始まり、26日間の集中審議の後、3月16日には判決が下されることが決まりました。

容疑者の植松聖は、今もなお、拘置所内で謝罪の言葉も反省もなく、障害者への差別的発言を続けています。重度の知的障害の娘さんと暮らす和光大学名誉教授（社会学） 最首 悟さんは、植松被告からの手紙を受けたことをきっかけに、毎月13日に植松被告宛てに返信を続けておられます。植松被告が自身の手紙で重度障害者を「心失者」という言葉で表現したことに対して、最首さんは植松被告の手紙に記された一つひとつのこぼの意を丁寧に解説しながら、ご自身の想いを淡々と文章に綴り、現在も被告とのやりとりを続けておられます。異例とも思えるこのようなスピード審議では、植松被告が裁判のプロセスにおいて自身の行為の誤りに気づくことや、謝罪の念をもつことも期待できないだけでなく、この事件の本質ともいえる「優生思想」の是非やこのような一方的なヘイト行為を生み出す社会の構造的な課題について、一切触れることもなく「特異な思想をもった犯人による異質な事件」として早々に幕を引いてしまおうという何らかの力が働いているように思えてなりません。

今年、5月28日には、仙台地方裁判所で旧優生保護法によって、障害を理由に強制的に不妊手術を受けさせられた2人の女性が国に謝罪を求めた裁判では、旧優生保護法の違憲性を認めながらも国の賠償責任は認めないという、不可解な判決が下されました。この判決の一ヶ月前には、旧優生保護法による強制手術を受けた人たちに対する一時金を支払う法律が成立しています。国からの正式な謝罪もないまま、わずかなお金で事を収める方向に司法までもが迎合したかのような判決です。6月28日の熊本地方裁判所におけるハンセン病患者家族が国の強制隔離政策による被害回復を求めた訴訟では、国の責任を認めて原告541名に対して、1人あたり33万から143万円（総額3億7675万円）を支払うよう命じました。この判決に対し、安部首相は、「判決内容については一部には受け入れがたい点があることも事実」とした上で、「筆舌に尽くしがたい経験をされたご家族のご苦労をこれ以上、長引かせるわけにはいかない。異例のことだが、控訴をしない」として上告を断念しました。

やまゆり園事件の刑事裁判や上記二つの民事訴訟の本来の目的は被害を受けた人たちの尊厳の回復です。一方的な差別的行為によって、奪われた命や権利がどれだけ大切なものであったのか、その行為がどんなに取り返しのつかない愚かな行為であったのかを加害側に認識させ、被害を受けた人たちの「尊厳を回復する」ことを目的としなければならないはずです。本質的な問題を回避した曖昧な幕引きを図る政府や司法を許すことはできません。

そしきりよく たか
「組織力を高める」



グループホーム 主任 米田 守

今年ちいろば園が開園30周年を迎えます。私はその半分の年月を皆さんと共に過ごさせていただきました。その中でいろいろな経験をさせていただき、共に楽しい日々や悔しいときや悲しいとき・・・などなど、みなさんと共に過ごす中でいろいろなことを学ばせていただきました。

私が入職して間もない頃は、右も左もわからず、利用者の方々とどう関わっていけばいいのかもわからず・・・自分でもどうしてこの仕事を選んだのか後悔したり、周囲からもいつ辞めてもおかしくないような職員と思われていたことと思います。障害福祉制度のことすら???で仕事に慣れることだけで精一杯でした。

ちいろば園・相談支援事業所なつぼし・グループホーム職員となんとか続けてこれたのは、「こんな先輩になりたい!」と思える人が身近にいたから・・・。相談しても先輩のアドバイスは迅速的確で「さすがプロだな」と思う内容でした。そんな先輩に少しでも近づきたくて、見よう見まねでひたすら頑張っていたように思います。

現在のちいろば会は主にふたつの事業・・・日中生活の支援の場(生活介護)、ナイトケアの場(グループホーム)を展開しています。職員も40名ほどの大規模な組織となり、職員の入退職も多く、職員間のコミュニケーションも以前に比べて希薄になってしまう傾向にあります。特にグループホームの職員は全員がそろって顔を合わせる機会も少なく、なかなかゆつくりとコミュニケーションをとる機会もそう多くはありません。共通の目的(ちいろば会の理念)を持ち、コミュニケーションを通じてその目的を達成していくための組織になれるように積極的にコミュニケーションを取り、個人としても自分がそんな役割が果たせるような先輩職員、存在になればと思っています。

組織力が高まれば利用者の方々にとって良い支援の提供「支援の質が向上」にもつながり、職員にとってもお互いに尊重し結果を認め一緒に考える。「関係の質の向上」→気づきが生まれる。「思考の質の向上」→自発的・積極的に行動することができる。「行動の質の向上」にもなります。これらによってちいろば会が今以上に良い組織に向かうように、この先40年、50年と共に成長しつづければと思います。



しゃしん とも しょうかい 写真で友だち紹介



このページでは、利用者の皆さんに、お友だちをひとり選んで写真を撮って紹介してもらいます。
しょうかい ひと じごう とも しょうかい じゆず
紹介をされた人には、次号であらたなお友だちを紹介してもらうという数珠つなぎのコーナーです。

よしおか か な 吉岡佳奈さんより やまだ たすく 山田 援さん しょうかい を紹介します。



やまださんをしょうかいします
いっしょにほんばいに行ってます
くっさーなじゅうずにみくるに
いれているのがかっこいいです
またいこうね

よしおかな



つじまさゆき 辻雅幸さんより たかみ りょうへい 高見 良平さん しょうかい を紹介します。



たかみ しょうかい
高見さんを紹介します。

たかみ おお こえ わら す
高見さんの大きな声で笑うところが好きです。

がつ にち いっしょ がいしゆつ れ くり えーしょん
11月11日に一緒に外出レクリエーション
に行けるのが楽しみです。

ながさき いっしょ た
長崎ちゃんぽんを一緒に食べたいです。



やなせひろかず 柳瀬弘一さんより おおはし けん しろう 大橋 賢志朗さん しょうかい を紹介します。



おおはし しょうかい
大橋さんを紹介します。

けいさぎょう かいぶもん いっしょ はきもの さぎょう
軽作業2階部門で一緒にミサト履物の作業を
しています。

ホッチキスの作業が得意です。パソコンやゲー
ムも得意です。

マリオやドンキーコングのゲームが好きみたい
です。





Nさんの変化

ちいろば園 生活支援員 土橋 美香

今年度も3分の2が過ぎました。軽作業2階グループでは構成メンバーや作業内容が変わったことで、年度の始めは戸惑う方々も多くおられましたが、最近は日によって多少の変化はあるものの、みなさんが比較的落ち着いて作業に取り組まれるようになってきました。

なかでもNさんは大きく変わってこられました。Nさんは体も小さくて体質的にも丈夫な方ではないということで、昨年度までは毎日決まった作業をしないグループで活動されていましたが今年度からはこのグループに変わり、他の方と同じように作業をされています。私は最初、大丈夫だろうか？と

考えましたが、そんな心配は全く無用でした。Nさんは自分から積極的に活動するタイプの方ではなく、じっと座って自分の世界に浸っていることの多い方です。けれどもこちらから働きかけるとマイペースではありますが、作業をしっかりとされているのです。数年前にされていた作業を覚えておられたということもあるとは思いますが、毎日の繰り返しの中で「決まった作業をする」ということがNさんにとっての「安心」につながっているようでした。職員の勉強会で発達の遅れがある方にとって「自由な時間」にどう過ごすかを選択することはとても難しいことだと学びましたが、まさにその通りでした。決

まった作業以外の場面でも、先の見通しがきくようにNさんに対してわかりやすく説明をすることを心掛けたところ、納得して動いて下さることが増えました。最近のNさんは以前に比べると人とコミュニケーションをとることが増えました。私たちの問いかけにも答えてくださることが増え、時には他の利用者さんと一緒に歌を歌ったりすることもあります。表情も柔らかくなり、笑顔が増えたように思います。

Nさんに限らず利用者さんの体調等を考えつつ無理のないように活動していただくことは大切ですが、支援者の勝手な思い込みで利用者さんの活動を制限してしまっていないかということを再度よく考え今後の支援につなげていきたいと思っています。

グループホームのくらし しょうかい 紹介します！！

2019年度 グループホーム世話人研修会に参加して

グループホーム職員 阪口 寿久

9月19日、NPO法人大阪障害者自立生活協会主催のグループホームの世話人研修会『虐待防止～よりよい支援の積み重ねから』に参加しました。今回はその報告をしたいと思います。

最初、「生野みんなの家」の木下さんから『虐待事例と再発防止の取組について』の事例提供がありました。どこのグループホームでも起こりうる事例でした。虐待事例発生後、取り組まれている事を何点か紹介してもらいました。職員間で議論を重ねよりよい支援の仕方を追求し話し合ってきたことが伝わってきました。その中で印象に残っていることは、利用者さんが安心して生活できるように誰もが見て理解でき、先の見通しが分かるようにツールを作って視覚に訴える工夫をしているということ。その際手書きの文字で伝えたと書き換えをしてもいいととらえられるのでパソコンで印字された物にする。そうすることによりこれは変更できないものととらえられ効果があるということ。グループホームで抱え込まず法人全体で考えていくということでした。このことは、すでにちいろば園では取り組まれている事でしたが、話を聞きながら、ちいろば園でも現在にいたるまでにこの事例のようにいろんな出来事があり、職員間で何度も議論を重ね今があるのだと改めて感じました。

続いて全体を10グループに分けてのグループ討論がありました。私のグループは『日頃の支援を見直そう』ということで交流しあいました。その中で確認し合ったことは、

- ・グループホームは利用者さんが安心して生活出来る場でなければならない。
- ・世話人として「～しなければならない」と考えるのではなく、ちょっとでもゆったりとし安心できる場を目指す。
- ・パニックになった時の対応として、1年目の頃は、力づくで制止していたが、経験を積んでく中で冷静に考えて声かけをすることができるようになった。そうすることによって相手に伝わるようになった。パニックになった時の様子をよく観察し、相手の様子を見て1つ1つ不安な材料を取り除いていく作業をする。一人で抱え込まないで、全体で考えることが大事。
- ・利用者さんあつての支援である。利用者さんがどう考えているかを理解する。見通しの持てる支援をする。事が起こったときは、その原因をていねいにさぐる。

ということを確認しました。

続いて、各グループからの報告とまとめがあり支援者であり当事者でもある『特定非営利法人ある』の鳥家俊治さんから「利用者さんは、支援者との間ですれ違いが生じたとき、そこから逃げられない苦しさがある。いろんな生活、個性を持っている支援者と向きあわなければならないことの大変さ。自分と合う人、合わない人がいて当たり前、そこを乗り越えて付き合わなくてはならない。イヤな思いをしても、その人から支援を受けるのだからやめてほしいと言えない。自分と関わり続けてほしい。見捨てないでほしい。その思いをしっかりと受け止めてほしい。」という話がありました。改めて、自分がやっている仕事の大事さを痛感すると共に、今まで何と甘い考えで利用者さんと接してきたのだろうと反省しました。

この思いをグループホームに持ち帰り、よりよい支援を目指し利用者さん一人一人と向き合いたいと思います。

こ だ わ り…?

グループホーム生活支援員 せいかつしえんいん かわにししんや
川西伸也

ちいろばに入^{はい}って約一年、すぐ^{やくいちねん}に思^{おも}ったことは、
ぼくには無理^{むり}かもしれない。みんな個性^{こせい}が強^{つよ}すぎる。

みんな こだわり^いと言うけれど、それは聞^きこえがいいだけで
気^きままだけではない^{おも}んですかと思う。

グループホームの仕^{しごと}事をやりだしてから
ぼくの前^{まえ}に現^{あらわ}れた人^{ひと} 声^{こえ}が大き^{おお}くて記憶^{きおく}力がすごい人^{ひと}。
ぼくに手紙^{てがみ}をくれました。

紙^{かみ}いっぱい^{もじ}に 文字^なスキマも無く、文字^{もじ}文字^{もじ}すごく迫^{はくりよく} 力^{もじ}ある文字。
この人^{ひと}に般^{はん}若^{にやしんぎよう}心^か経^かを書いてもら^{もの}ったら、すごい物になる。
この人^{ひと}が思^{おも}った字^じ体^{たい}、黒^{くろ}ではなく、カラフルな色^{いろ}
はくりよく 迫^{すば} 力^{さくひん}のある素^{おも}晴^{おも}らしい作^{おも}品^{おも}ができると思^{おも}いました。

次^{つぎ}に現^{あらわ}れた人、ぼくにいきなり絵^えをくれました。
これってタイヤ すごい、タイヤを強^{きょうちよう}調^えした絵。
平^{へいめん}面^{めん}でもなく、立^{りったい}体^{てき}的^{てき}でもなく、2・5次^{じげん}元^{せかい}の世界^{せかい}です。

素^す 晴^ばらしいの一言^{ひとこと}です。
タイヤ屋^やさんが見^みたら、感^{かん}心^{しん}する。
いや、
誰^{だれ}が見^みても喜^{よろこ}ぶでしょうね。
これってこだわり
いろんなこだわりあるんですね。
もう少し こだわり 探^{さが}してみたいと思^{おも}います。



ちいろば クリスマスコンサート

2019

「フルートとチェンバロでお贈りするバロック音楽の花束」

日時 2019年12月14日 (土)

開場 14:30 開演 15:00

会場 ちいろば園 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

《 演奏者 》

チェンバロ：河野 まり子 フルート：内田 尚子

《 プログラム 》

W. バード：ウオルジンガム変奏曲 (チェンバロ)
J. S. バッハ：無伴奏フルートのためのパルティータ イ短調 BWV1013
J. S. バッハ：イタリア協奏曲 BWV971 (チェンバロ)

～～～バロック音楽名曲の花束～～～

ロワイエ：スキタイ人の行進
バッハ＝グノー：アヴェ・マリア
ヘンデル：調子のよい鍛冶屋の変奏曲
バッハ：シチリアーノ
モーツァルト：キラキラ星変奏曲

★大人：1000円 こども：(小学生以下)800円 (スウィーツセット付)

★チケットはちいろば園、愛の園幼稚園で予約・販売しています

★チケット予約・販売 お問い合わせ先 ちいろば園 Tel 0745-72-1923

★ちいろば園⇄王寺駅北間 送迎バスを運行します。利用をご希望の方は事前にお申込み下さい

行き… 王寺駅北 (14:15発) 帰り… ちいろば園 (コンサート終了後発車)

☆後援会費・ちいろばだより年間購読料(2019年8月1日～2019年9月30日)

植村葉子、森谷公将、篠原範子、山田哲士、中園大三郎、社会福祉法人ひまわり

以上 敬称は略させていただきます

「やまゆり園事件はなぜ起きたのか」
—裁判を前に犯人と文通を続ける最首 悟さんに聞く—

未だ、拘留所から障害者への差別的発言を続ける植松 悟 容疑者
横浜地方裁判所は、1月8日に初公判、3月16日には判決を言い渡すことを
発表しました。異例とも言えるスピード審議を前に、植松被告と文通を続けて
おられる重度の知的障害をもつ娘さんと暮らす和光大学名誉教授の最首 悟さん
を講師に招き、この事件がなぜ起こったのか？
最首さんのお話からこの事件の本質をみなさんと考えたいと思います。

にちじ：2019年12月22日(日)

ばしよ：奈良市生涯学習センター(奈良市杉ヶ町23)

※駐車スペースが少ないため、公共交通機関をご利用ください
※JR奈良駅(東口)より南へ徒歩9分

参加費：無料(会場カンパをお願いします)

主催：相模原やまゆり園事件を考える会・奈良
奈良県障害者差別をなくす条例推進委員会

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年6回 頒価 50円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-31-5760

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F